

「治療と仕事の両立支援」 認知度調査アンケート結果



一般社団法人 日本産業カウンセラー協会
東関東支部 茨城事務所長 田邊唯克

産業カウンセラー協会の
3つの活動領域



【所在地：本部】

東京都港区新橋6-17-17 御成門センタービル6階

【全国組織】13支部（35拠点相談室）

【設立】

1960年11月

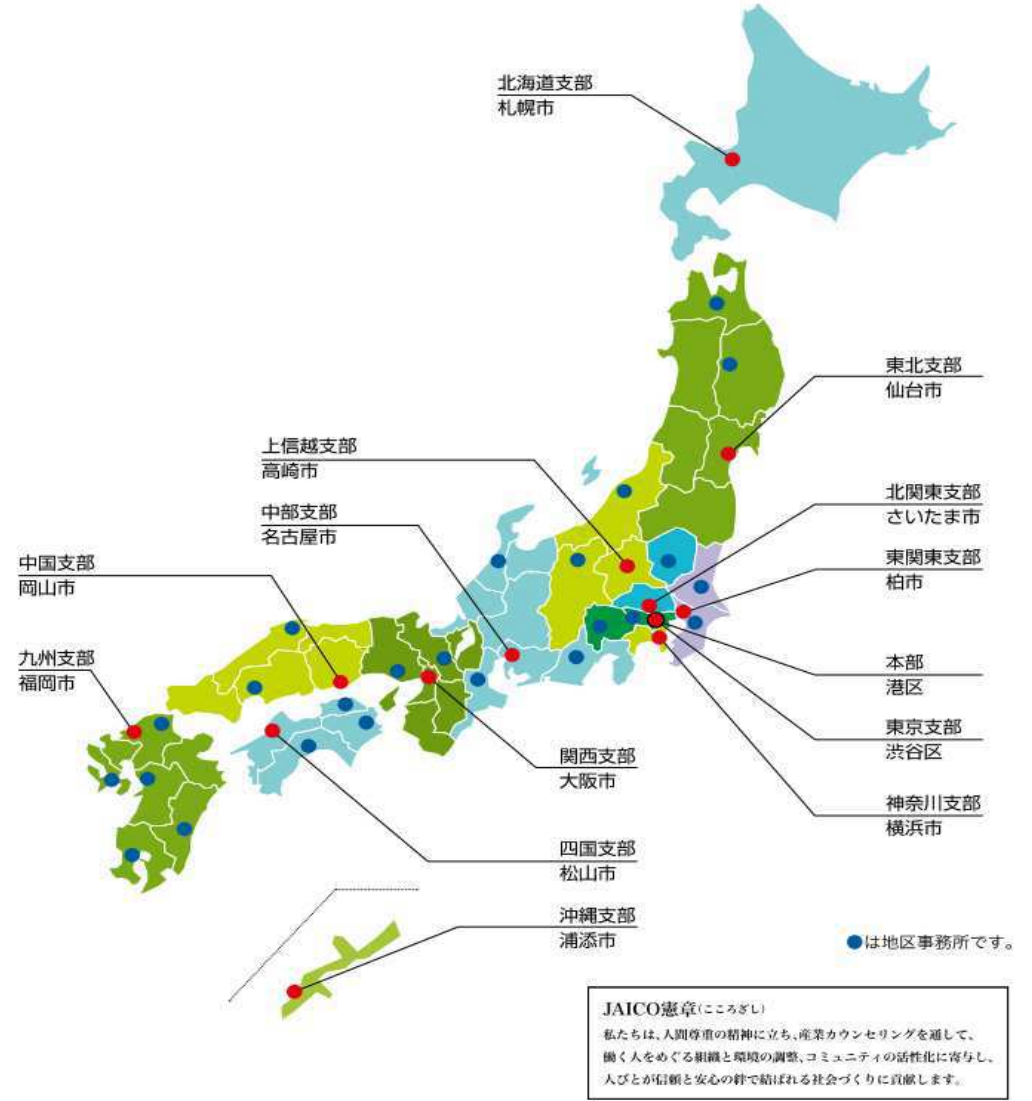
【会員数（個人）】

32,857人（2022年11月末現在）

【賛助会員数（団体）】

347社（2022年11月末現在）

一般社団法人日本産業カウンセラー協会 概要



「治療と仕事の両立支援」認知度調査アンケート

■ アンケート実施主体

一般社団法人 日本産業カウンセラー協会 東関東支部 両立支援委員会

※両立支援委員会は両立支援に産業カウンセラーとしてどのように関わられるか検討・推進するために2020年6月に設置

■ アンケートの目的

「治療と仕事の両立支援」に関する認知度調査を行い、労働者の治療と仕事の両立支援の必要性について、産業カウンセラーの認知度向上のための活動に利用する

■ アンケート対象者

日本産業カウンセラー協会東関東支部に所属している資格登録会員

(2023年5月時点：対象者2,706名のうちメール会員1,527名にアンケート発信)

(回答期間：2023年5月24日～6月23日)

■ 回答数

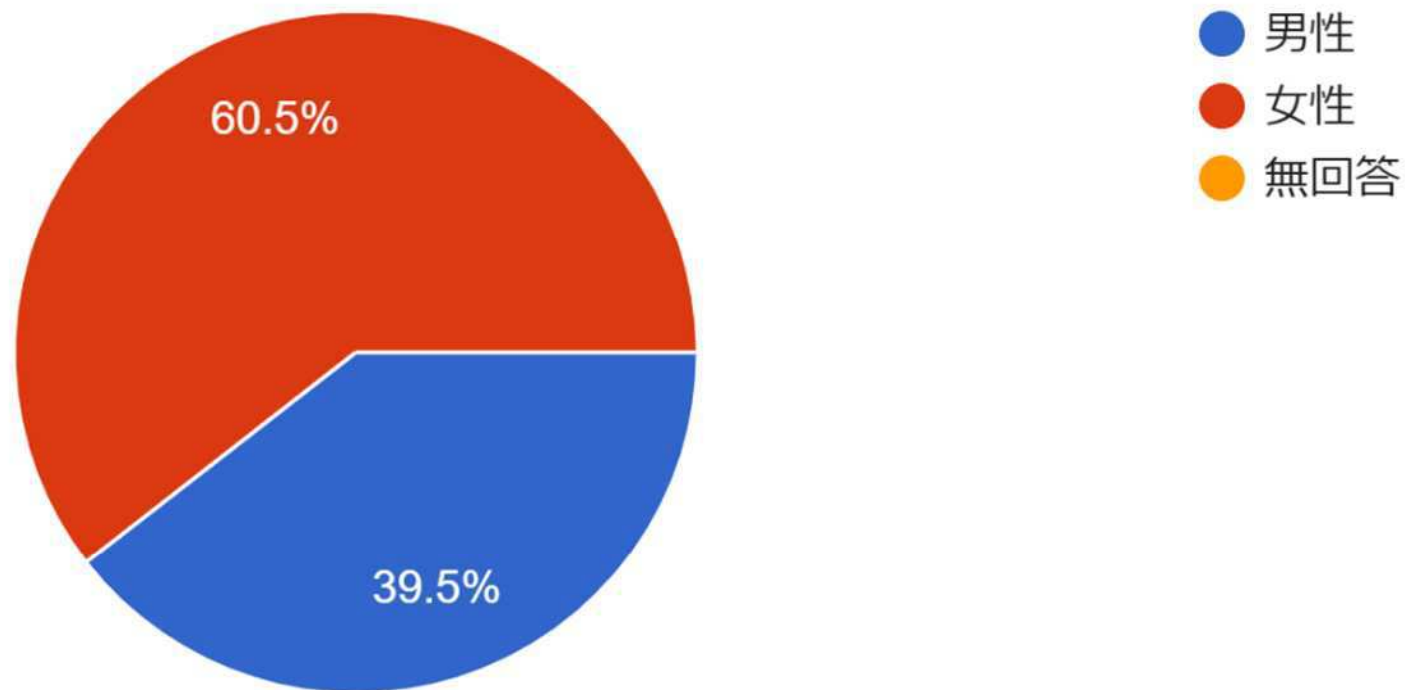
76件 回答率5.0%

アンケート結果



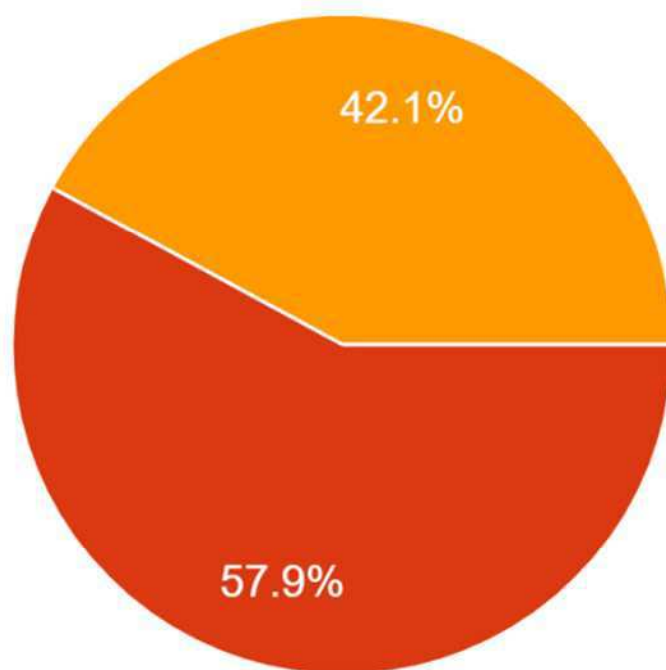
性別を教えてください。

76 件の回答



年代を教えてください。

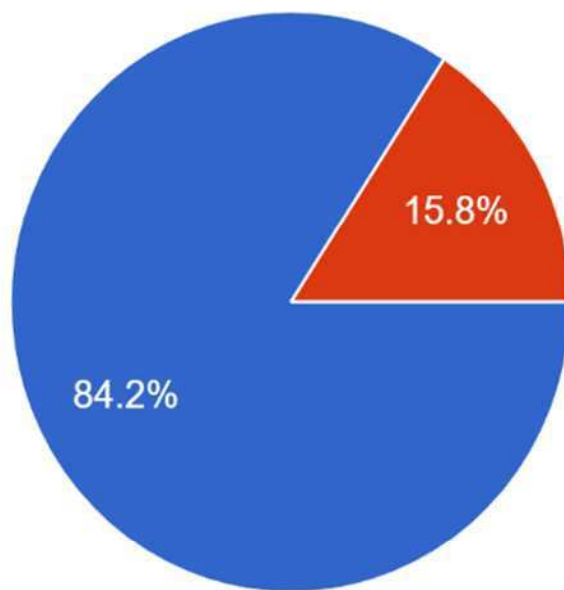
76 件の回答



- 20代~30代
- 40代~50代
- 60代~70代
- 80代~

「現在」就業していますか？

76件の回答

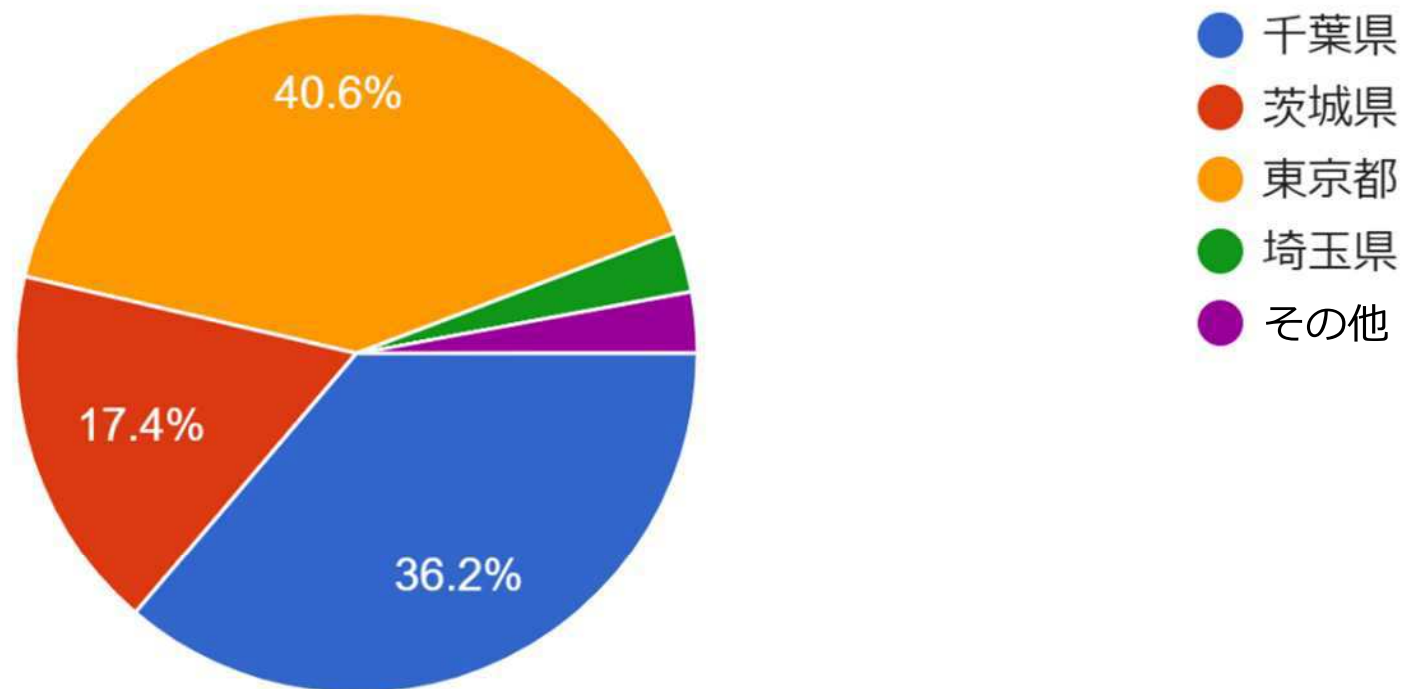


● 就業している

● 就業していない (無職 ※最近離職された方も含む)

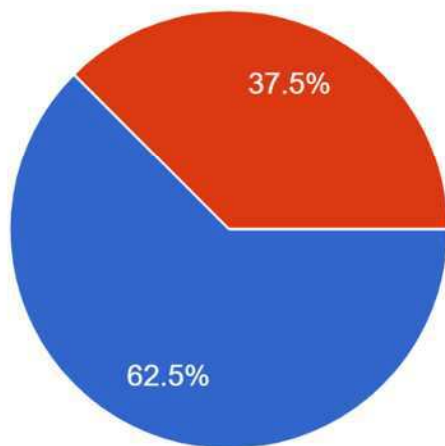
就業先の勤務地を教えてください。

69 件の回答



就業先で「治療と仕事の両立支援」という言葉を聞いたことはありますか？

64件の回答

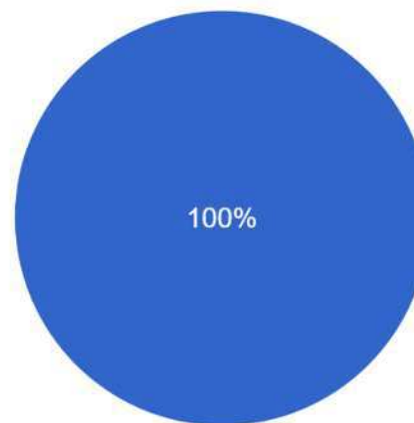


● はい
● いいえ

就業している人

「治療と仕事の両立支援」という言葉を聞いたことはありますか？

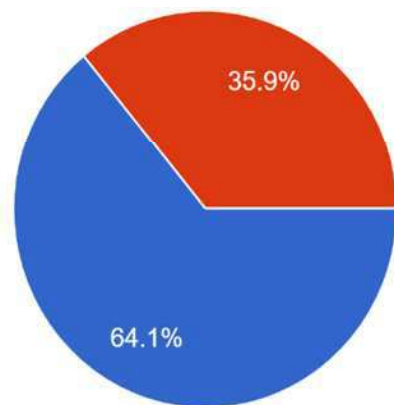
12件の回答



● はい
● いいえ

就業していない人

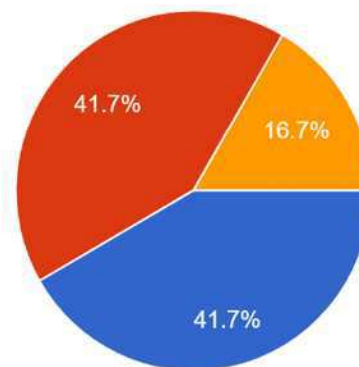
病気の治療をしながら就業を継続したことはありますか？又は身近にそうした方がいらっしゃいますか？（64件の回答）



- はい
- いいえ
- 治療と仕事の両立ができず離職したことがある

就業している人

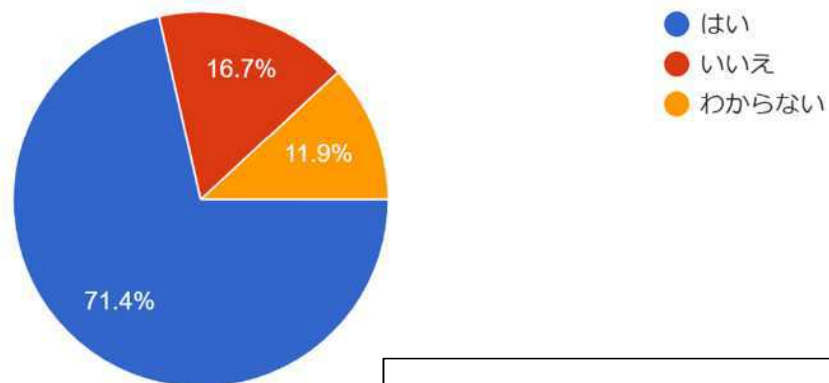
過去に、病気の治療をしながら就業を継続したことはありますか？又は身近にそうした方がいらっしゃいますか？（12件の回答）



- はい
- いいえ
- 治療と仕事の両立ができず離職したことがある

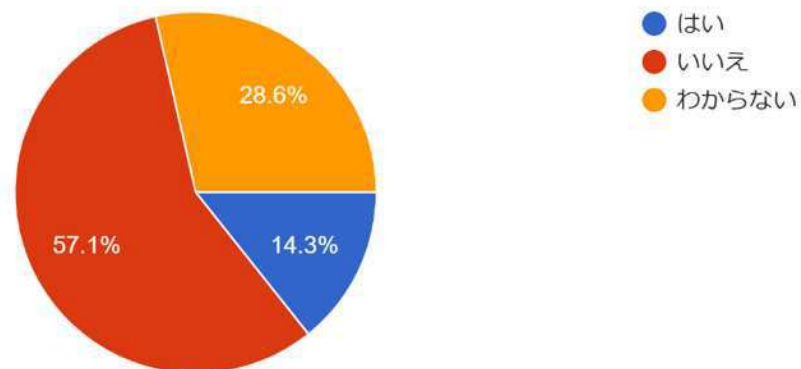
就業していない人

【「はい」と答えた方へ】当事者に対して、何らかの配慮（労働時間中の通院の配慮、仕事の軽減）がなされましたか？（42件の回答）



就業している人

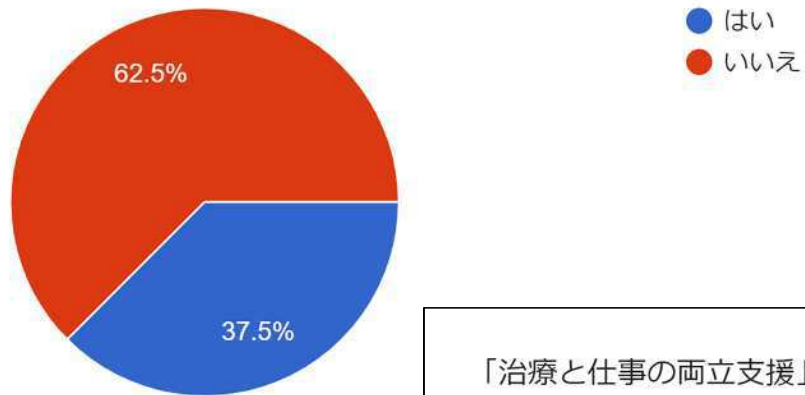
【「はい」と答えた方へ】当事者に対して、何らかの配慮（労働時間中の通院の配慮、仕事の軽減）がなされましたか？（7件の回答）



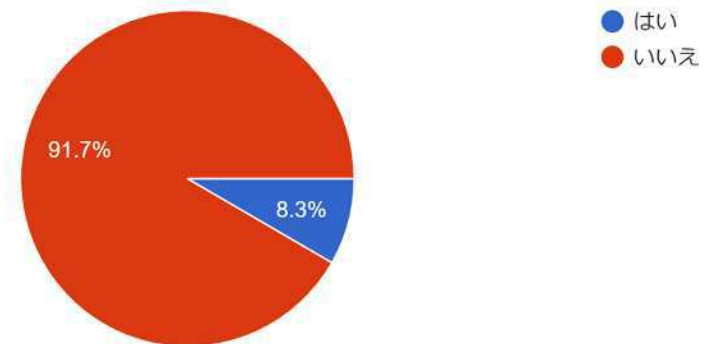
就業していない人

就業している人

社内外を問わず、「治療と仕事の両立支援」に関する研修会等に参加されたことはありますか？
64件の回答



「治療と仕事の両立支援」に関する研修会等に参加されたことはありますか？
12件の回答

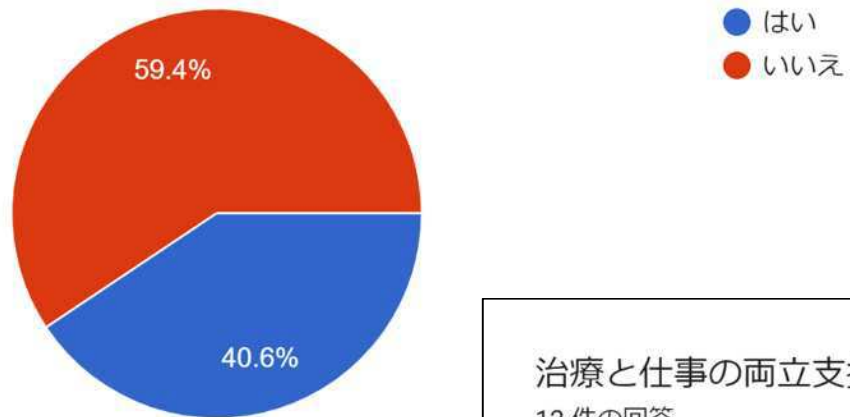


就業していない人

就業している人

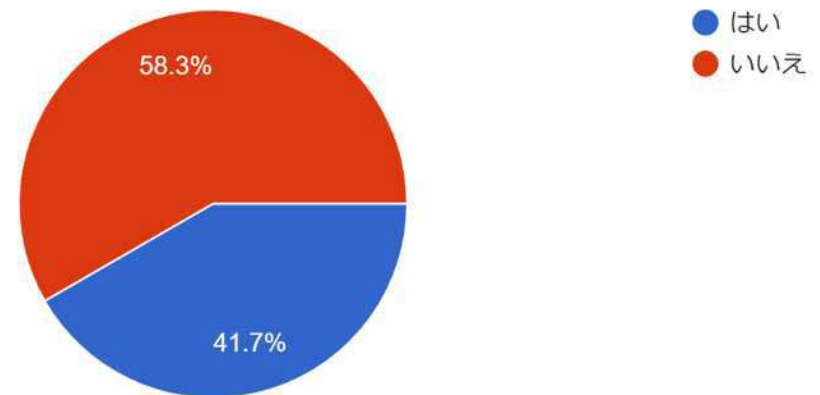
治療と仕事の両立支援窓口が設けられている病院があることを知っていますか？

64 件の回答



治療と仕事の両立支援窓口が設けられている病院があることを知っていますか？

12 件の回答



就業していない人

■ 「治療と仕事の両立支援」には何が一番大切だと思われるか？（61件の回答）

就業している人

- 周囲の理解
- 職場の理解
- 疾病に対する理解と弾力的な勤務対応
- 当事者の周囲への情報開示する意思と、それを理解し配慮できる周囲の心構え。
- 雇用者側が、就労の機会を担保し、両立支援に参画することに社会的な役割があることを認識すること。
- QOL維持向上のための支援
- 両立支援に関する情報の提供
- 経済的な保証があること。
- とにかくその人に対する理解、思いやりが大事です。それと、勤務時間など特別な配慮という言葉はどこまでが特別の定義なのかとても難しいと思う。例えば勤務時間や通勤時間などについても本人の申告や希望などが聞けない限り、雇用者側がいろいろ考えても本人に白目で見られる場合があった。なので特別対応などについても非常に難しいと思う。

- 会社、職場の理解。制度を整えることも大切ですが、制度があっても使わせてくれない、という話も聞くので、上司や同僚等の理解・協力は不可欠だと思います。
- 治療にかかる時間への配慮と周りの理解
- 会社として就業規則の整備、職場の周知と理解、対象者へのサポートなど
- 心のケア
- 会社、職場、上司、同僚の理解と柔軟な働き方を容認していくこと。親の介護も同じであると考えます。
- 通院への理解と、病気によるパフォーマンスの低下とそれに伴う逆性的ストレスの適切な評価。
- 受け入れる側(会社等)の体制や風土の改革
- 職場の制度と理解
- 適材適所
- 罹患者の状態を考慮した業務内容や量、また家族や周りからのサポートがある事。
- 安心して治療をできる環境を整えること。
- 周りにいる人の病気への理解
- 無理をさせない、無理をしないこと。またそれを許せる寛容の精神、愛。
- 会社側の妥協

- 周囲の人達の理解。
- 知識とコミュニケーション
- 周囲に自分の状況を正しく理解し、相談にのってくれる環境があること。
- 治療をしながら働き続けるための職場の制度があり利用しやすいこと
- 事業所の理解や、相談センター、ピアサポート等の情報など
- 周囲(特に直属の上司や同僚)の理解 ・ 余裕のある人員体制 ・ 当事者含め誰もが休日休暇を取得しやすい雰囲気作り
- その人の状況を理解すること。
- 職場の理解、時間単位の年休取得など実効性のある社内制度
- 周りを巻き込むチカラ
- 大切なのは職場環境（職場の人達、会社の制度など）/必要なのは支援に関する知識だと思います。
- 職場の上司、同僚など業務を行う上でどういう配慮があるといいか、理解してもらうこと。
- 当事者の心と身体の健康（働くことと生きる事への意欲）

- 周囲の理解、認知度の上昇
- 罹患者本人が望んでいることと周りの支援のギャップを少しでも小さくすること
- 会社側や周りの周知と協力
- 当事者に寄り添う会社の姿勢と一定のルール、当事者の感謝の気持ち
- 「お互いさま」の気持ち
- 勤務先の治療に対する理解と配慮
- 医療従事者を含めた周囲の理解
- 就業できる環境の提供
- 職場の環境と管理者(直属の上司)の理解。
- 職場の理解とコミュニケーション
- 経済的な余裕と、病気治療への支え
- 周囲のサポートと職場と労働者の間に関わる人物
- 治療をしながら無理なく仕事を続けられる環境の整備、上司・同僚の配慮
- 理解
- 治療の回復・進行状況の把握と業務負荷とのバランスのとり方が大切だと思います。

■ 「治療と仕事の両立支援」には何が一番大切だと思われますか？（11件の回答）

就業していない人

- 職場の環境の理解
- 会社側の認識と実行力
- 制度の一般社会での認知度
- 本人の話をよく聴いて職場で可能な限りの配慮すること。本人の了解のもと上長が中心になり職場全体で配慮への共通認識をもってもらうこと。
- 上司、同僚の治療や可能な働き方への理解
- 会社側の理解
- 上司によって支援の仕方が様々と感じますので、治療と仕事を両立するための就業規則が必要だと思います。
- 会社と個人との共通認識

- 本人の情報開示と勤務先が提供できる支援のすり合わせ、中立的な相談先、管理職教育
- 治療をしながら仕事は続けられることという本人の認識や周りの理解
- 治療に対しての理解。

【アンケート結果まとめ】

- 病気の治療をしながら就業を継続したことがある人は、現在就業中の人では64%、今は就業していないが就業していた当時では42%の人、大半の人が「両立」を経験をしていることが窺え、少数ではないことが想定できます。
- その治療をしながら就業を続けた際に、何らかの配慮があった人は、現在就業中の人では71%と高い一方で、今は就業していない人では僅か14%に留まっています。今は就業していない人の17%は「両立ができずに離職した」と回答されていますので、「離職せざるを得ない背景」に、「配慮のなさ」があったのかもしれない。
- そのあたりの事情が、両立支援に関する研修会に参加された割合が、現在就業中の人では38%に対して、今は就業していない人では僅か8%に留まることにも関係があるように思えます。
- がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」のような相談窓口についての認知割合は、就業中の人もそうでない人もどちらも4割ほど。これは、どちらも「4割も」知っているというより、まだ、「4割程度しか」周知されていないと考えられるのではないのでしょうか。

- 「治療と仕事の両立支援」には何が一番大切かとの自由回答については、ほぼ全員の皆さんからご意見をいただきました。

その中で、共通して圧倒的に目立つ「言葉」は「理解」です。

周囲の「理解」、職場の「理解」、疾病に対する「理解」、通院することの「理解」、治療に対する「理解」など、当事者の人の「わかってほしい!」との声が溢れています。

そして、「環境」「配慮」といった言葉が続きます。

安心して治療できる「環境」、相談にのってくれる「環境」、休暇をとりやすい「雰囲気」、仕事を続けられる「環境」、当事者に対する「思いやり」、受け入れる側の「風土」などの言葉からは、制度（ハード）を整備するだけでなく、その運用（ソフト）の大切さを求めている声が聞こえてきます。

以上

(ご参考)

- 両立支援委員会として現在実施していること
 - ・ 両立支援Café (当事者及びその家族)
 - ・ 同上 (支援者)
 - ・ 会員向けの両立支援研修会 (希望する会員向け)
 同上 (電話相談員向け)
 - ・ メルマガによる情報提供

以上

ご清聴ありがとうございました。